

「気球に乗って出発～県のすばらしさを伝えよう～」

さいたま市立向小学校 栗田 亨

1. はじめに

新学習指導要領で求めている「地図帳を自由に活用できる知識や能力を身に付ける」ためには、

- ①地図帳の使い方についてのガイダンスを行う。
 - ②教科書の事例地はもちろん、地名が出てきたら必ず地図帳で確認する。
 - ③朝の自習などで地図当てクイズを行うことを促す。
 - ④地図帳を使った学習のまとめ方を指導する。
- など意図的・計画的に地図に親しむ機会をつくっていく必要がある。ここでは、④の例として、学習指導要領4年内容(3)で「産業、都市、地形など県のすばらしさを伝えよう」という課題のもと、八戸市で行っ



た実践について紹介する。

2. 気球に乗ったつもりになって

おもな学習の流れは、以下の通りである。

- ①県のすばらしさを伝えるためには、どこのどんなようすを紹介したらいいかグループで話し合う。
- ②地図帳の「東北地方のくわしい地図」をもとに、紹介する場所と気球の飛行ルートを決め、線を引く。
- ③地図帳をよく見て、ルートにはどんな町や地図記号や絵記号があるか、そのことからどんな風景が見えるか考える。
- ④地図上のルートをたどって、上空から見えるであ

う風景を既習の知識も使いながら伝えていく。

- ⑤目的地の上空に着いたら、産業のようす、町や土地のようすなど、県のすばらしさを伝える。

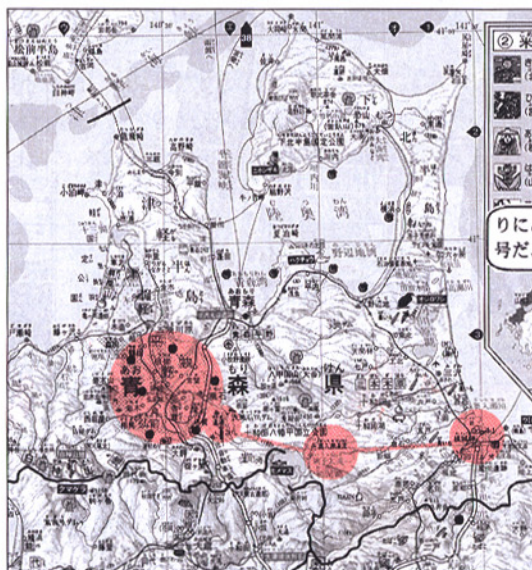
3. 地図帳とにらめっこ

ルートが決まったら、地図帳の読み取りにかかる。

4. フライト開始(八戸市～十和田湖～弘前市)

あるグループは、次のようなフライトを行った。

- ①八戸市は漁業と工業の町で、いかの水揚げ日本一です。港の近くには、水産加工品工場や製紙工場が見えます。十和田湖に向かうと、馬淵川に沿って田や果樹園が広がっています。だんだん山に入っていきます。
- ②滝のように流れる奥入瀬溪流が見えてきました。黒い三つの点は名勝を表しています。十和田湖は観光客でにぎわっています。やがて湯湯温泉のこけし作りが目にはいります。
- ③弘前市の周りは、果樹園が広がっています。シャリ



帝国書院『小学校社会科地図帳(三訂版)』p.35

八戸市には、漁港、商港、火力発電所がある

地図帳4ページの記号の説明を見ればわかる!

弘前市のまわりにある、赤い点々は果樹園の記号だ、りんごの絵がたくさんある

シャリしていて真っ赤なおいしいりんごが採れます。青森県はりんごの生産高日本一の県です。

5. おわりに

「青森県は特色がないと思っていたけど、地図帳で調べて、りんごやホタテの生産が盛んだとわかった」「ルートに沿って

詳しく調べたら、地図が好きになった」の言葉の通り、地図帳を使って学習をまとめ、読み取りをていねいに指導したことで、地図に親しみをもち、自由に活用できる子どもの姿に一步近づいた。